

令和元年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和元年6月15日（土）9:30～15:00

○場所 大磯町役場 4階第1会議室

○出席者 委員5名出席

○事務局 町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 20名

○会議記録

1. 議題

(1) 平成30年度事業報告及び令和元年度事業採択に係る審査について 【公開】

報告事業ナンバー①「大磯町湘南フリーペーパーWake Mam」

◆事業名称：「大磯町湘南フリーペーパーWake Mam」事業

◆事業効果、実施内容：補助事業等実績報告書参照

◆補助金の交付額：100,000円

◆質疑

【委員】フリーペーパーの配布効果として、町の魅力に気づく手助けが出来た、とあるが、これを配布してからどういった反応とか、感想とか、反響などがあったか。

【報告者】外の部分には、大磯町の色々なイベントの情報も載せて、ママたちには自分たちが一番欲しい情報が入っている。町内の店舗の紹介もしているの、今まで気になっていたけど子連れで行けるかどうかなど心配だったので、こういう風な自分の身近な情報があって良かったという声があった。

【委員】何部くらい作り、どのような所に配架したのか。

【報告者】大体、1,000部作成。最後の特別号だけ2,000部作成。大磯町幼稚園、保育園等に配布、その他観光課や図書館、取材協力店舗に置かせもらった。

【委員】参加されたお母さん達は地域的には町のどの辺の方が多いか。

【報告者】国府地域から数名参加。その他に町外の方など。参加者のやりたい気持ちが先行してしまい、自分の子育てとの両立が困難となった。記事作りを全部やってもらうのは負担だったのかと思う。

【委員】具体的な活動場所はどこか。

【報告者】 港湾管理事務所会議室を借用。

【委員】 本当によくできているので、配布場所を広げてもらったら、もっと広がりが出てと思う。今年度の補助金の申請が無かった理由は。

【報告者】 ママ達の参加が難しい、参加者が限定されてしまい、その人達への負担が増えた。一回休んでスポンサーである湘南マジックウェーブにご協力いただき、2号紙くらい今年も発行したいと考えている。継続希望の声も多いので中止にするのは勿体ない。

【委員】 子供達とママ達の居場所づくりをハードル高くしては本末転倒。色々な店舗を紹介する中で応援する方がいるならぜひ何らかの形でフリーペーパーだけでも続けてもらえたらと思う。

【委員】 収支決算書で補助金がメインだが、今年は申請がなくても財源は大丈夫か。

【報告者】 湘南マジックウェーブと補助金をもらう前からスポンサー契約をしていたので、上手く連携をとってできないかと考えている。財源と人集めを同時にやっていかなければならないので、バランスが課題。ママ達だけではなく時間に余裕のある他の世代の方、地域の方にもご協力いただけたらもう少し活動の幅が広がってし易くなるのかなと思っている。

【委員】 湘南 Wake Mam で人員募集はしているのか。

【報告者】 毎回一緒に活動してくれるママさん募集を掲載している。

【委員】 記事の作成は経験者を募集することで伝手があると広がるのではないかと思う。またメディアを通じて募集ができれば良い。

【委員】 回覧はその地域の区長さんの判断で町内で回すことができる。

◆報告事業②First Step (ファーストステップ)

◆事業名称：「子どもプロジェクト」事業

◆事業効果実施内容：補助事業等実績報告書のとおり。

◆補助金の交付額：100,000円

◆質疑

【委員】 この活動に参加した子供たちの感想や変化などがあれば教えていただきたい。

【報告者】 参加した子供の感想としては、大人って僕たちの話をこんなに聞いてくれるんだということが正直な感想なんだな、という事。話の聞き方や言葉の使い方が、大人相手に話を聞くのに失礼にならないか考えな

がらやるようになっていったと感じる。コミュニケーション能力は上がったように思う。

【委員】対象は小学生か

【報告者】小中、高校生も含まれる。

【委員】そういう活動に参加するとこんな良いことがあるよというメッセージがまだうまく伝わっていないのかなと若干感じた。

取材先の平塚に大磯の子達が行っているということなので、大磯のフィールドにしていただけたら良かったと思う。

【委員】メディアという子供たちが今すごく関心がある分野で、取材という形で子供たちの視線が地元に行くということはすごく良いことだと思う。具体的に中心的になっているのは中学生か。

【報告者】今、中学2年生の子を中心に、その周りの友達を少しずつ巻き込み始めているところ。

【委員】何人位いるのか。

【報告者】今2,3人を中心に書いている状況。今平塚の大学生がサポートで入り始めてくれた。

【委員】小学生は何名位いるのか。

【報告者】小学生は5年生くらいからスタートしていたのだが、小学生は書くのが難しく、大人の手伝いが必要。対象年齢を最初は小学生と考えていたが、内容的に考えると中高生でないと難しいと実感しており、対象を上げていこうかと思っている。

【委員】中学校に対する活動の充実で、検討したことはあるか。例えば、教育委員会などで。

【報告者】まだ形としてできあがっている訳ではないので、先生たちを混乱させてしまうなどと思っている。今は5回6回と重ねてきて大体形が見えてきたので少しずつ相談させていただけたら良いなと考えている。

【委員】参加者は生徒なのだが、休日に集まるのか。それとも個人で持ち帰って宿題的にやっているのか。本当は集まってみんなで聞きながらすると年上の子を見て、育成という訳でできるのではないかなど。

【報告者】全員でというのが難しい。子供達はラインでグループを作っていて、ラインの中でやりとりはしている。その中に大人も入るようにはしており、オンラインでやりとりはしている。たぶん会ってやらないことには幅も広がることも少ないので、もう少しその日数を増やしていき

いな、と思っている。

【委員】子供たちの変化の速度に合わせてプロジェクトをやっていたいでみなさんにもっと変化していただきたいので、補助金をうまく使ってほしい。

令和元年度の申請がなかったが、この補助金自体使いづらいのか、活動する仲間が集まらないから今は一旦立ち止まる時期だと思っているのか。

【報告者】ホームページなどで維持費にお金がかかる程度で取材を無料でさせてくれるところも多いなど、費用がかからない。また、申請に至るまでの来年の事業計画が、子供たちがやりたいことに添ってあげたいとなると、途中で変更するということが起きるので見えない。

【委員】大きな目的がその重大性と子供たちの人づくりの話なので、うまくこういう補助金があるわけだから、プロジェクトのみなさんが考えてあげて、子供たちを中に引っ張り込む活動をしてほしいと思う。

報告事業ナンバー③「大磯高麗山芸術祭」

◆申請団体：大磯高麗山芸術祭実行委員会

◆事業名称：「大磯高麗山芸術祭」事業

◆事業効果、実施内容：補助事業等実績報告書のとおり。

◆補助金の交付額：100,000円

◆質疑

【委員】会場内に行くと沢山人が集まっていて皆さんが驚くような場面が見えるが、一步外に出ると、非常に静かになる。あえて狙いとして、外に雰囲気を出していないのか、それともイベントを売りにするのであれば、むしろみんなに知ってもらいたいと思う。例えば、橋の下に案内するとか、よそから来る人のために駐車場をアナウンスするなどあっても良い。内容が良いだけに、狙いがどうなのか。

【報告者】駐車場の問題は、近隣のご協力をいただいて、車をどうするのか、という問題と、国道の方にもあかりを出してもいいのではないかと、というような問題は、町を含めて皆さんの大きなご協力が必要だと思う。今後検討を是非していきたいと考えている。

【委員】共催のところに、「高来神社氏子総代会」がある。神社と関わりということで良い取り組みだと思う。

【報告者】氏子総代会については、町の助成金なのであまり宗教というのは

困るよ、というような話が申請の時にも出た。新たに「竹あかり倶楽部」を発足しました、ということについて、氏子総代会のメンバー中心ではあるが、それと別にシニアの方たち中心に竹あかりのイベントをやっていこう、というコミュニティが生まれた。他の町内や、町外などへ広がりがあるかと思う。

【委員】 イベントをきっかけに新しいコミュニティが出てくる、それはすごく中でこういうの面白いよね、とみんなが積極的に関わってくるから新しいコミュニティが生まれてくる。そういう意味ではこれに書かれているようにすごく良いのを作られていたんだな、という風に思う。

大体このイベントで何人くらいの人が来られたのか、また世代間交流というところで、子供たちなのか、どういう方たちが来られたのか。

【報告者】 来場者数に関しては、正確なカウントではないが、土曜日は夜から、日曜日は昼間からイベントを行って、およそ延べ1,500名位。ワークショップに関しては、アートの方は約3日間でおおよそ60名くらい、スタッフ協力者は延べ100名程度。

【委員】 かなり大きい規模と思うのだが。

【報告者】 同じ人が出たり入ったりというのもあると思う。

【委員】 コミュニティの喪失ということを考えていくと、規模が大きくなればいいということでもないかと思う。みなさんで目指している方向にあった規模感を持っていくのがいいと思う。

【報告者】 大磯芸術祭自体は実は今年は申請していないが、2020年に向けて芸術祭部門に関しては、新たな企画がある。

【委員】 舟は今はどこにあるのか。

【報告者】 作家のところにある。三浦の芸術祭、真鶴の芸術祭、葉山の芸術祭という風に色々なところを旅している。今後も別の芸術祭に出展したり等で大磯の伝説から生まれた船だよ、ということでPRも兼ねて作品が旅する。

【委員】 大磯だけで留まるのは勿体ない。廻ってもらえれば大磯の伝説として色々なところに伝わる。そこから興味を持たれて大磯に来てくださればいいな、と思う、是非継続していただきたいと思う。

④報告事業ナンバー④「マコモの里大磯作り」

- ◆申請団体：大磯マコモ研究会
- ◆事業名称：「マコモの里大磯作り」事業
- ◆事業効果、実施内容：補助事業等実績報告書のとおり
- ◆補助金の交付額：226,500円
- ◆質疑

【委員】農家の方が忙しい中で、新たな大磯町の特産品を作ろうとしている活動なので、非常に大変素晴らしいことだと思う。今どのくらい作付けをしているのか。

【報告者】作付けは、研究会全体で田4反位。

【委員】収穫したものは、ほぼ完売しているのか。

【報告者】販売先には、農協を通して販売したり、月1の大磯市に合わせて販売、大磯駅前の地場屋ほっこり。皆さんだんだん理解してこられて、その場で本日売り切れというのものもあるぐらい盛況。

【委員】これは行けそうだという感じはあったか。

【報告者】マコモタケをイベントで売る時に、試食として先程収穫体験でやったマコモの炊き込みご飯、てんぷらなどを食べてもらう。タケノコと違ってあく抜きというのが必要ないので、そこをPRして調理も非常におかずとしてもよろしいということ、秋限定なので、試食して消費者に売り込んでいる。

【委員】体験会で農家だけではなくて地域の人達にも、こういう新しい農作物を知ってもらうという働きかけは大事。子供達が地域のことを知ることができる。40人というのは、小学生に声を掛けられて、子供だとか親子とかだと思って良いか。

【報告者】土曜日という定期的なところと、大磯町教育委員会、大磯町の協力があり、大磯小学校、国府小学校ほぼ全校の児童にチラシを配らせていただいた。実際に参加されなくてもマコモタケがこんなもんだよということが、理解いただけたかと思う。大磯町の給食の素材としてマコモタケがいるということで、親しみというのが増えればいいかなと思っている。

【委員】40名と45名は、ほぼ同じ人たちが来ていると思って良いか。

【報告者】収穫と試食も兼ねているので、参加人数は多く、継続も多いが、収穫体験の方に来られる方が多かった印象がある。

【委員】継続して関わられるような計画を見ると、子供たちの教育上、すごくいいと思う。草取りなどの手入れが必要か。

【報告者】草取りは、自分たちでやっている。農薬が使えない。

【委員】そういうときも声をかけて良いと思う。農薬なんか使わないで丁寧に作っているというメッセージにもなると思う。

【委員】平成30年度当初申請の計画していた内容が、実際は、すべてやるのができたのかどうか。また、一緒にその活動された農家が増えているのかどうか。面積は広まってきているのかどうか。

【報告者】面積は当初よりは、随分広まっている。販売との兼ね合いで、PRを今年度は中心にできた。生産者の数は面積と共に販売の販路を確定してから人数を増やそうと考えている。大磯町・平塚・二宮から県の方へPRして、大磯特産から県の特産へと持って行けるように活動している。

【委員】新しい特産品というか、今まで大磯になかったものを広げているので、すごく大変な農家さんの御苦勞があると思うが、発信していただかないと、いいものも広がっていかない。どこと繋がると爆発的な話題に上ってくるのかと考えるところが、皆さんだけじゃなくて、例えば行政や商工会など、色々とあると思う。

【委員】現在は、需要と供給で言うとうどうなのか

【報告者】今の段階では、6割ぐらいから7割ぐらい。

【委員】需要が足りないということか。

【報告者】販路の問題。結局どうやって販路を広げていくか、そうすれば、もっと生産者を呼び掛けられる。現在3名だが、まず基盤づくりをして、需要が増えてくれば呼び掛けする。

【委員】特産品なので、ふるさと納税で大磯の返礼品として、いただけると嬉しいと思う。

【報告者】町のふるさと納税の担当にも相談したが、生産が10月からだから無理ですという話を聞いた。

【委員】マコモタケで加工したものなど、ふるさと納税に色々できれば良い。

報告事業ナンバー⑤「学生英語ガイドボランティア」

◆申請団体：さざれ石学生英語ガイドボランティア

◆事業名称：「学生英語ガイドボランティア」事業です。

◆事業効果、実施内容：補助事業等実績報告書のとおり

◆補助金の交付額：100,000円

◆質疑

【委員】 素朴な疑問だが、ドイツ、タイの方のガイドは英語でやったのか。母国語がドイツ語・タイ語を英語で通訳する方はいらっしやったのか。

【報告者】 ドイツの方に関しましては、英語は外国語として勉強している学生さんがいたので、半数以上の学生が、英語も分かった。英語が分からない半数弱の学生は、コーチの女性が英語からドイツ語に通訳した。タイのお客様は、英語教育が中学でされていない学校で、英語が通じなかったなので、タイ語をカタカナで覚えたり、翻訳機器を使い、英語と日本語で伝え、展示物を主に見せて説明したので、分かっていた。保護者が英語が少し分かったので、通訳をしてくれた。外国語として英語をどんな風に教育されているのか、学んでいるのか、自分たちの勉強になった。英語だけに頼らないコミュニケーションを取っていったらと思う。

【委員】 決算の報告書の中で、全体の支出額の中で自己資金の内容というのは、会に予算か何かあるのか。

【報告者】 代表者が出している。

【委員】 寄付する形か。

【報告者】 その通り。

【委員】 自己資金、資金が町の補助金になっているので、補助金終了後活動が小さくなってしまってもったいないと思う。何かしらこの収入の部分を違う考え方の中で確立していく方法を考えていただきたい。

【委員】 保険代が700円程度ということで、お子さん達だけ、大学生以下小学生ぐらいの子供達でグループを作って活動しているということなので、これぐらいの金額で良いのかどうか、心配。大人が見ていれば、何かある時にというのはあるが、子ども達だけだということで、平気か。

【報告者】 毎回私が付き添っている。

【委員】 毎回出ているのか。

【報告者】 毎回付き添っている。写真を撮ったりもしている。怪我の場合など保険員と相談した上で入っている保険なので、大丈夫かと思う。再度確認をする。

【委員】 結構年間を通して動いているのと、多くの学生さんとの活動なので、こういう部分が多少でも準備として手厚くできたらと思う。

【報告者】 手厚いものでなくても準備しておきます。

【委員】昨年度の報告で5回ガイドをしている。ドイツとデイトン市とタイの観光客と津田塾のアメリカ人講師と演奏会。どういう形でこのガイドが実施されているのか。

【報告者】ドイツの方は、観光課の方から御紹介を戴いた。デイトン市長団の方は、国際交流協会様とのお話の中で、実現した。タイの方は、町内タイ料理店の家族から依頼があった。津田塾大学の講師は、練習中に是非ガイドを見たいとのことで、急遽ツアーをした。

【委員】ガイドの質は、しっかり勉強されているので大丈夫だと思うが、もし先方からの依頼であれば、寄付の形で多少ガイド料を戴くことができないか。今後検討いただければと思う。

【報告者】今後参考に取り入れたいと思う。

【委員】報告書で新規会員13名と非常に沢山の人数がいるが、いきなりガイドとして活躍できるのか。

【報告者】13名入ったが、デビューしている学生は少ない。1年弱ぐらいは、勉強会などで練習して、と思っている。継続して戦力になっているガイドと一緒に組んだりだとか、バイリンガルガイドとして、日本語でのガイドをできるようにしている。

【委員】学生をボランティアや、ガイドへ導いていく非常に貴重な事業だと思う。ゆくゆくは、お金を稼いで、地元でガイドで生活できるという風なことがあれば、若者が大磯から発展することができるのかと思う。例えば伊豆半島ジオパークのガイドは、1時間1人案内4,000円。

【報告者】東京オリンピックで来客される方が増えれば、機会が増えると思う。その時には、ガイド料ということはできないと思うが、寄付のお声掛はしていこうかと思う。

令和元年度審査事業ナンバー①「マコモの里大磯作り」

◆申請団体：大磯マコモ研究会

◆事業名称：「マコモの里大磯作り」事業です。

◆事業効果、実施内容：補助事業申請書、収支予算見込書のとおりです。

◆補助金の交付額：244,000円です。

◆質疑

【委員】既存の農業機械で作付けや刈入れをすることは難しいのか。

【団体】全然できない。マコモの株を収穫終わり切り、これを新しい苗とす

る。その作業が重労働。いかに効率よく行うかも今後研究したい。

【委員】休耕田の活用という視点で見た時に、稲よりは手間がかからないということか。

【団体】トータルでみると同程度。重労働で、農薬がないので、草取りが大変。用具の工夫をしたい。

【委員】今年度、県の特産品にしたいという話だが、手続きが必要か。

【団体】具体的な手続きは今年詳しく検討していく予定。

【委員】県の特産品に認められると、周知のことなど、県がかなり支援してくれるのか。

【団体】わからない。今後相談。

【委員】知ってもらって、試食の機会があれば、それを優先し、栽培農家を増やすことも大切だが、広げることを頑張ってもらいたい必要がある。栽培している農家は3軒だが、増える傾向はあるのか。

【団体】興味がある人はいる。現在の3名が安定して販売をして、品物が足りなくなるような状況になれば入ってもらうように話をしている。

【委員】栽培の重労働を外に発信していくことも必要。募集について、いかに仲間を増やして広げることが良いのか、と考えることも一つではないか。

【団体】段々みんなにやってもらいながら、マスコミやテレビ局などにボランティアの人達が、メールや一株オーナーを大磯のマコモの里づくりのフェイスブックで発信してくれている人もいる。

【委員】来年オリンピック・パラリンピックがあり、プリンスホテルに多くの外国人がくる話がある。色々な観光資源が町の中で今広がろうとしてきている中で、炊き込みご飯が美味しいのであれば、試食してもらい、知ってもらって良さを広げてもらう。今年の補助金が確定するのであれば、頑張ってやってもらいたいと思う。

【団体】補助金のおかげで、ここまで伸びてきている。このように6割でも7割でも生産量の中から作ったものの中から、売れるようになったというのはすごいこと。3名の農家が、生産に従事できるようになった。当初は、大磯町の荒廃農地の問題もあって、そういう効果もあって、そのような協力もできた。この補助金がなければやろうと思わなかった。

【委員】今年度で補助金が終わる。今後具体的に補助金が何に使われているのか。来年以降どのように継続または展開していくのか。

【団体】今後のことを考えて、チラシとポスターは今年度の予算で少し大目
に作る。栽培体験等好評なので農業委員会や産業観光課とかが協力して
くれるという話がある。好評だった苗植えや、また新しいことを予算
の範囲内でやっていきたいと思う。

【委員】町民活動という観点からは、町民の方が参加できる機会がとても大
事なので、続けていけるようにしてもらえればと思う。

【団体】続けられる方向で、今年度の予算を使っていきたいと思う。

【委員】県の特産品という話は、おそらく神奈川ブランドの話ではないか。
生産とか販路とか条件があり、それをクリアすることでブランドになる
という記憶がある。神奈川県と記事を書いたり、積極的にアピールする
良い流れになると思う。

【団体】今勢いがあるので、この勢いに乗せて、大磯町の特産品として、県
の特産まで認められるところまで持っていきたいと思っている。

【委員】一株オーナーの話だが、これは今後も続けてほしい。

【団体】30名位募集し、15名位応募。これは続けたい事業の一つ。

【委員】販売したときの収益は、フィードバックするのか。

【団体】会の方にある程度は。手数料だったり材料費がかかっているのでそ
ういうものを除き会にバックする。行事は必要経費を全部除いて、バッ
クして会に自己資金として充てる。

【委員】県に認められた時に助成金は県から出るのか。

【委員】神奈川ブランドだと助成金は出ないかもしれない。

【団体】名前を知ってもらうことは大事。袋が良い例。農協経由で県内に販
売されて市場から遠くへ行く。真面目な問い合わせが多く、私のところ
へ色々問い合わせが来る。横浜や川崎の方でも広まり効果があった。

審査事業ナンバー②「学生英語ガイドボランティア」

◆申請団体：さざれ石学生英語ガイドボランティア

◆事業名称「学生英語ガイドボランティア」事業です。

◆事業目的、事業計画：補助事業申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の申請額：146,000円

◆質疑

【委員】今年もまた新たなお子さんを募集するのか、それとも昨年集まった
メンバーで今年は進めてるのか。

- 【団体】すごく積極的に募集するという訳ではないが、町内の商店等にチラシを貼ってもらうように依頼予定。
- 【委員】町民活動ということで町の予算を使っているの、開かれているということがとても大事。できるだけ多くの人に参加できる活動にしてもらえればと思う。
- 【委員】予算の中で、プロジェクターがあるが、使用目的は。
- 【団体】ガイドが増えたことで、以前は澤田美喜記念館の協力を得て記念館の中で研修をさせていただいていたが、来館者に迷惑がかかるので、会議室やホールを借りて、実際の展示物を写真に撮ったものを展示物に見立て、練習している。またガイドの様子を録画して、反省会に使う、交流会ではクイズなどで使いたいと思っている。
- 【委員】プロジェクターだけ買ってもスクリーンがないと使えないのではないかな。
- 【団体】スクリーンも購入予定。
- 【委員】収支のところで、澤田美喜記念館の年間パスがある。観光客の方を記念館に案内する仕事をされているので、館にとってありがたいことではないかと思う。もし可能であれば協力してもらおうということとはできないのか。
- 【団体】澤田美喜記念館は3月で値上げをした。相談するのが難しい。6回以上練習すると元が取れる。
- 【委員】活動が広がってきているので、澤田美喜記念館だけをガイドしなくても、別にお金がかかることではないことを考えてみもいいんじゃないかな。澤田美喜記念館をガイドすることがこの会の目的だとするのならば、本質からずれるが、お金をかけてやっていくというのはどうなのかと気になってくる。
- 【団体】名誉町民というところで、澤田美喜記念館やエリザベスサンダースホームという施設のことや、岩崎山に集まってくるアオバト、近隣の小田原に行くとお城が見られますとかの案内。
- 【委員】お金を払ってボランティアをしているのが去年から気になる。
- 【団体】施設に応援をしてもらっている。練習をするときに、他のお客様が混んでいなければや団体が入っていなければ施設利用を快く受け入れてくれている。小中学生は、頻繁に出入りさせてもらっている。
- 【委員】施設が大切なものというのはわかるが、14万円の町の補助金の半

分が澤田美喜記念館に行っているということになる。団体が活動する成長するためにお金を使ってもらえれば今後のためになると思う。

【委員】収支予算見込の寄付金 75,000 円はどこからの寄付か。

【団体】これは町内の方をお願いをしていく予定。

【委員】広く協力依頼をするのか、特定の方のみか。

【団体】現段階では、特定の人からは賛同を得られている。

【委員】今後もまた広げる予定か。

【団体】現段階で賛同を得られている人達から見込んである金額が収支見込の金額。

【委員】英会話するだけでなく、ガイドのスキルアップという観点から他の団体と交流を行うことも良いのではないか。

【団体】英語ではないが、地域の中では語り部や、町内の歴史に詳しい方をお招きしている。

【委員】大磯のガイド協会との交流があればと思う。

【団体】観光協会にチラシを置いてもらったりはしている。

【委員】人との交流もしてはどうか。一緒に歩いてみるなど。

【団体】観光協会と少し踏み込んだ活動を考えていきたいと思う。

【委員】子供達のためにもなると思う。

【委員】ボランティアメンバーは主催されている英語塾生が中心になっているという記憶がある、今回新規メンバーが報告の段階で 13 名増えたということだが、このメンバーも塾生か。

【団体】塾生も含む。

【委員】塾生じゃないメンバーもいるのか。

【団体】いる。塾とのつながりを知らずに、連絡してきたケースもある。

【委員】社会人も混ざっているが。シニアのガイドが入る計画はある。もし、応募してきた人にシニアがいたら、どう扱われるのか。

【団体】学生であれば受け付ける。社会人の学生から関わっていききたいという話はいただいている。

【委員】年齢制限はないのか。

【団体】年齢制限はない。募集のチラシには、学生であることと明記している。

【委員】収支予算で、町の予算の事業経費の半分が補助金の収入となっているが、補助金が満額支給されなかった場合は、事業の規模が縮小されて

しまうが、自己資金や寄付金をさらに募っていくなどするのか。

【団体】寄付金を広く募っていきたいと考えている。

【委員】今年度やってみて、来年度以降まだ補助金の機会があるので、寄付額を収支に入れていただき、補助金頼みではなく、活動が継続できるようなことを、やっていただきたい。

審査事業ナンバー③「大磯固有のデザインをプリントしたTシャツの生産販売」

◆申請団体：大磯町福祉作業所等連絡会

◆事業名称：「大磯固有のデザインをプリントしたTシャツの生産販売」事業

◆事業目的、事業計画：補助事業申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の申請額：94,000円

◆質疑

【委員】Tシャツの販売で、相当の販売を目指すところがあるが、予算の中にある販売額で、1000円が30枚、900円が10枚、45枚ということか。

【団体】そういうことである。1,000円の売値で30枚、900円の売値で10枚。支出の一番下のところに590円で購入するとあるが、それを基本的に1,000円で、それから390円で購入したものを900円で売るという価格設定にしている。

【委員】相当販売額というイメージはわかるが、この後またさらに増やしていくのか。

【団体】当初の数字が入っている。金額をかさ上げしていきたいと考えている。

【委員】グッズをTシャツに絞った理由は何か。

【団体】1年ほど前から、我々の団体でコラボで商品を開発しようということをやってきた。最初は、大磯町の摘果みかんの精油を使って作ろうと思ったが、たぶん原価がすごい高いということで断念した。障がい者が描いたデザインのTシャツで2か所くらいの事業所で販売したことがあるが、単に障がい者が描いただけでは販売数は伸びない。大磯町にゆかりのあるデザインに絞って、広く販売できるという形でやったほうがいいのではないか、という話で、Tシャツにした。

【委員】着るものは男女、若い、年配とかある。どんな方たちに向けたTシ

シャツになるのか。

【団体】当初の幼、壮、老の3つで、評判が良ければ男や女に分けてサイズ化していこうかと思っている。

【委員】デザインを変えていくということか。

【団体】デザインを変えていこうと思っている。

【委員】支出の部分で、販売されるTシャツの数が80枚と40枚で120枚になっていて、それに対して売り上げの方が30枚と15枚で45枚。そこで75枚の差がある。収入の部分で75枚の分の収入の一部として計算してもらった場合、町の金額の補助金で15,700円くらいの差があるが、この75枚分の差が出ることには何か意味があるのか。

【団体】3月までの事業計画ということで、3月までで売れる数というものが、この程度ということから予想しただけである。残りは4月以降に売れる。

【委員】収入としては、入ってくる予定だと、その実績に差があるが、町の補助金が94,000円まで、結構いい計算ができていますので入りと出で考えれば、この金額がなくてもどうなのかなと気になる。もともと本来の事業の大きな目的ということで、活動団体に活動する障がい者の皆さんの就労の機会の創出だとか、労働の対価としての還元・給料とかのために商工所とかも考えているというが、これは一般的に現在、障がい者の福祉事業とか障がい者の支援の一環かなと思う。今回、あえてそこへ申請者である皆さん、事業所を組んでいる皆さんが町の補助金をしてみようかなと考えたのはどのような流れであったのか。ご自身たちの事業所としての活動の中でも成り立ちそうな今回の事業に見えるが。そこにあえて町の補助金を投入してやってみたいと思うのか。町民活動の推進というところで何か特別な考えがあるのか。

【団体】目的として挙げたのは、町の活性化というのが当然ある。障がい者の工賃は時給で換算すると150円。これは法律で決まっている。販売した売上から諸経費を引いた残りを分けて下さいよということ。そうなる売上から諸経費を引いたものをみんなに支払うとなるが、そのくらいにしかない。役場の一階で今販売をさせてもらっているが、それでも平塚市の場合は1700万円くらいの売り上げがある。だけど、我々は、1年間やっても100万円いかない。それを4団体に分けて1人あたりやっても数10円にしかない。何か事業を持たないといけない。事業者

だけでやっている中で、提案しているのが一緒にやろうよということである。なんとかTシャツだけで100万円売り上げを得て、売り上げを倍にしたい。ただ100万というだけであるが、そういう面もある。

【委員】個々の事業所としての活動ではなくて、障がい者とかかかわっている連絡会という大きな組織として、新しい事業として考えたいからこの補助金を使ってみたいと思った、そういうことか。

【団体】そういうことである。要するに大磯町の活性化にもつながる。

【委員】活性化というのは大磯にゆかりのあるデザインをしているということか。

【団体】そのとおり。

【委員】Tシャツを作って団体のショップやホームページで販売するという形で記載があるが、こういうところでこういうものが売っているということみんなに知っていただかないと、なかなか販売までいかないのかなというところがある。広報で何か考えはあるか。

【団体】タウンニュースやそういった無償でお願いできるところに掲載したい。できれば広報に載せてもらい広告したい。それから吉田茂さんにゆかりのあるデザインのものだったら吉田茂邸でも販売をしてもらうというように、県会議員の池田東一郎さんに話をしてみればというお話もいただいている。

【委員】大磯町の町民活動推進補助金は、広く実施するということなので、公益性ってことが問われると思う。その活動の効果が広く町民に及び、特定の個人や団体に利益になることが無い、ということが挙げられているんですが、町民に対してどういったプラスがあるのか、こういったことをやることの意味や、公益性はどう考えるか。

町民活動の場合、申請書に書いてある障がい者の工賃の向上とのための事業というのは、すごく分かるが、一つの事業として見た時、町民にとってどのようにプラスになるのか。

【団体】大磯町に対してのということか。

【委員】公益性ということになるので、特定な、クローズな、共益的な、政治的な活動ではなく、公の利益に供するということが求められてくる。

【団体】大磯町にはお土産が少ないということで、大磯町へのメリットはあると思う。大磯町を訪れた人達からは、大磯町にはお土産が少ないね、ということはお土産を売ることであり、グッズが増えることは

大磯町にとってもメリットとなると思う。

【委員】Tシャツの仕入れの枚数と販売の枚数が違うというのは、事業単年度で実施しているので在庫が残るということになり、翌年以降に持っていくということになる。それは団体の収入になると思うので町民活動と税金を使っている中で、それが最初から在庫を作るとを計画に含めて税金を使うというのは、ふさわしくないと感じる。そこは是非改善をしいって欲しい。あらかじめ在庫を作る計画というのはふさわしくないとと思う。

【団体】作る時にそれなりのロットでないとロスを生む。最少だったらこのくらいかと思う。

【委員】購入者というのは、訪れてきた人がお土産として買うという形がメインか。

【団体】町民が買ってくれるのも期待している。町民がどこかに行くときの土産として持っていくこともあると思っている。

【委員】Tシャツは色々な所で販売をしていて、デザイン次第というところがある。デザインが確定した時点で計画が出ていると、ある程度判断がし易いが、これからどういうデザインになるかというところで事業が上手くいくか、いかないかが関わってくる。この現段階では判断がしにくい印象がある。

【団体】作品を募集して面白いデザインの案を資料として添付した。バカヤローのはひねりがあって、いいんじゃないかと。アオバトのTシャツは子供には良いのではないかと案が出ている。

審査事業ナンバー④「大磯竹あかり」

◆申請団体：大磯竹あかり倶楽部

◆事業名称：「大磯竹あかり」事業

◆事業目的、事業計画：補助事業申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の申請額：100,000円

◆質疑

【委員】作業効率がすごく良くなる機械は、耐用年数はどの位なのか。平均的に何年も使えるものなのか。

【団体】本体機械本体はかなり長く使えると思う。カッティングなので刃の問題になる。1枚が2万から3万円。竹をカッティングしたり、竹に穴

を開けたりする道具は、通常の木工部品やカッターではバリと呼ぶとげとげがでてしまう。竹あかり作成会社にも聞いたところ、竹刈り用の刃があり、バリがでないのでそれを使いたい。

【委員】補助金の申請額の10万円と消耗品費の10万円でぴったりになっている。今回、1年目、2年目、3年目と補助金を受けられるので、補助金がなかった場合の消耗品費が賄えていたかが知りたい。

【団体】去年竹あかりのイベントでは、消費品で一番が激しいのがキャンドル。去年は大体1,200個使用。一個の単価が20円。そうすると2万4千円、2日間で2倍。それに伴い、点火するためのチャッカマンが必要になる。一回の開催で50個くらい使用する。今年は1,500個のキャンドルを使用する計画になっている。1500個の2日分、2,000を超え3,000本。

【委員】確認だが、竹あかり自身の竹あかりづくりのワークショップをやるのはその1回だけか、それとも年に何回かやるのか。

【団体】竹を切り出しして材料にして、作りましょうという講習会的なものは、今回2日間考えている。残りは10月の半ばから末にかけて、竹あかり倶楽部で少しずつで交代交代、都合のいい者で作って当日を迎えるということになっている。

【委員】どうせ作らなければいけないのであれば、ワークショップの回数を増やすのは難しいのか。できるだけ多くの人がそこに関われたらよいのかなと考えた。

【団体】多くの人を集めて一同にやる、そのためには何が必要か。道具が必要になってくる。

【委員】回数を増やすのはだめなのか。

【団体】回数を増やすということになると、不慣れな人が参加するので安全を考えると、指導者が大変な数必要になってくる。今、会員は17名だが、その都度その都度全員が出てくる、子どもから大人まで、70歳から80歳の人達に集まってもらって、主催者である私どもを含めた会員がその人たちの安全確保ができるのか。一回の開催で20人から30人ならばその日の会員の数でできる。

【委員】昨年までの竹あかりは、高麗山芸術祭という形であった。芸術祭と竹あかり倶楽部の関係は、今回あえて再編したという話だが、今後は組織としては、ばらばらに動いていくという意味合いか。

【団体】3年前から高麗山芸術祭というものがあって、そこに参加させてい

ただいた。その時はまだ竹あかりとしては活動していなかった。芸術祭と名をつけると自分のイメージかもしれないが、ハードルが高い。

【委員】先ほどの今年のスケジュールが11月の9日10日は、今年は竹あかりでイベントを打つのか。

【団体】今年は大磯竹あかり倶楽部主催の大磯竹あかりでイベントを打つ。

【委員】ということは、芸術祭でない竹あかりということか。昨年までは、芸術祭の中に協賛金などいろいろお金が入ることになっていたと思うが、竹あかり倶楽部としての本年度の協賛金7万円は望んでいくと、見込まれているということでしょうか。

【団体】収入源というのが竹あかり倶楽部にはない。会費も無料。よって活動するためには何らかのお金が必要である。頼りになるのは、このような行政の補助金、それと、有志からの寄付金。会員の無償提供、ボランティア。これが定着していったら、賛同が得られればこのような協賛金など募金などが増えていくのではないかと淡い期待をしている。

【委員】何故この質問をしたかというのと、この補助金は最終的に3年間。3年後には、行政からの補助金がなくなっても、この内容自体すごく面白いし、残してもらいたいと思うので、単に財源を皆さん方が確保するのかわかりたかった。

【団体】竹の玩具を作って販売していきたい。竹の玩具は自然素材。使うのはこの接着剤の部分だけ人工物で、あとは全部自然物である。こういうものを作って少しでも資金稼ぎにしたいと考えているが、まだ案の段階。

【委員】水鉄砲も作れるのではないか。また、竹馬なども。

【団体】そのあたりも意見が出た。子供たちに自然素材で遊んでもらう、ゲームもいいかなと思う。特に高麗山の高来神社の色が、あのようなところは出店もなく障害物もないので、竹トンボなんかを飛ばしやすいから、そのような観点からも安全かなと思う。

【委員】ろうそくにお金がかかっているが、給食の油に固めるテンプレを入れたものがろうそく代わりにするものを見たことがあるが、何か芯だけでも少し安くできないか。

【団体】キャンドルを自前で作れないかという案は出た。ただキャンドルの中に入れる芯、これを固定包みする様な道具というものはない。市販のキャンドルは1本20円で4時間持つ。このキャンドル以外にもいろいろな備品を買ったりする手間を考えると計算的に20円でも安いと考えてい

る。

【委員】 何本作る予定だったか。

【団体】 今回 3,000 本。個数を作らなければならないので、3,000 本作るとなると、個数の問題ではなくてかえって労力、時間、色々な部品を買う費用を計算すると 20 円の方が計算的には安いかなと思う。